

『魅せる』『伝わる』色彩コミュニケーション!!

色だけじゃない！イメージ創りの立役者

6月から4回に渡り、「色」を活用したイメージの表現方法をお伝えしてきましたが、今回は色にプラスαすることで更にイメージ創りの手助けとなるモノについてお話していきます。

印刷物には読み手に情報を明確に伝えるため、「文字」を使って表現することがほとんどですよね。皆さんはその文字を入力する際、文字の種類「フォント」をどの様を選んでいきますか？ただの文字入力だと思って、適当に選んでいたとしたら…**とても勿体ない!!**

実は、色が様々な心理効果を与えるのと同じように、「フォント」の種類によってもイメージを創りだせてしまうのです。



漫画に使われている効果音も、雰囲気合わせた文字の形になっていますよね!

試しに、弊社の社名ロゴでどの様になるか見てみましょう!

ドッシリと力強い感じ!

ゴシック系フォント



柔らかく繊細な感じ!

明朝系フォント



どうですか？フォントの種類を変えただけで、弊社の印象もガラッと変わったのではないのでしょうか。この様に、色だけでなくフォントにも一工夫加えることで、印刷物に込めた想いはより一層伝わりやすくなりますよ。

文字で、もっとデザインを思いのままに!

皆さんがよく使う・目にするフォントと言えば「ゴシック体」「明朝体」の2種類ではないでしょうか？この代表的な2つのフォントの持つ特性や与える印象を知り、紙面イメージに合わせた色と書体選びをして、印刷物の雰囲気を自在に操れるようになりますよ!

ゴシック体フォント

《特長》

視認性(ハッキリ見える・目立つ)が高い

《与える印象》

- ・親しみ
- ・にぎやか
- ・存在感
- ・男性的

さらに…

文字が細いと…シャープで女性的に。
文字が太いと…元気で力強く、男性的に。

明朝体フォント

《特長》

可読性(読みやすい・目が疲れない)が高い

《与える印象》

- ・落ち着き
- ・上品、優雅
- ・知的
- ・繊細

さらに…

文字が細いと…より繊細で女性的に。
文字が太いと…和風で歴史的、男性的に。

デザインの種

今回のテーマ：
「色+フォントの掛け算で魅せる！」

◆色を変えれば、イメージ通り・・・？

特別な空間で、
匠の技を味わう。

厳選された素材を腕によりをかけて仕上げ、
老舗割烹ならではの繊細な味わい。
「匠の台所」を存分に楽しみたい。

女将コース 5,500円	板長コース 7,500円
<ul style="list-style-type: none"> 前菜 押し寿司 お造り 季節の炊き合わせ 小鉢 揚げ物 お食事物 甘味 	<ul style="list-style-type: none"> 先付 前菜 お造り 季節の炊き合わせ 小鉢 揚げ物 お食事物 甘味 季節の焼 ご飯物 甘味

一品料理のご用意もございます。(要予約)

特別な空間で、
匠の技を味わう。

厳選された素材を腕によりをかけて仕上げ、
老舗割烹ならではの繊細な味わい。
「匠の台所」を存分に楽しみたい。

女将コース 5,500円	板長コース 7,500円
<ul style="list-style-type: none"> 前菜 押し寿司 お造り 季節の炊き合わせ 小鉢 揚げ物 お食事物 甘味 	<ul style="list-style-type: none"> 先付 前菜 お造り 季節の炊き合わせ 小鉢 揚げ物 お食事物 甘味 季節の焼 ご飯物 甘味

一品料理のご用意もございます。(要予約)

左にあるのは和食割烹店のパンフレットをゴシック体を使って作成した物です。「高級」「和風」「上品」を表現したいと思い、色使いを右の様に変更してみました。すると左の物より大分イメージに近くなり、和の雰囲気が出ましたね。でも、何だか少し物足りないような…？

「ゴシック体」から
「明朝体」にチェンジ！

◆フォントも変えてみると・・・

色を変更して和の雰囲気を出したデザインに、もう一工夫！ここから更に上品さと高級感が出るよう、フォントを「ゴシック体」から「明朝体」にしてみましょう。

特別な空間で、
匠の技を味わう。

厳選された素材を腕によりをかけて仕上げ、
老舗割烹ならではの繊細な味わい。
「匠の台所」を存分に楽しみたい。

女将コース 5,500円	板長コース 7,500円
<ul style="list-style-type: none"> 前菜 押し寿司 お造り 季節の炊き合わせ 小鉢 揚げ物 お食事物 甘味 	<ul style="list-style-type: none"> 先付 前菜 お造り 季節の炊き合わせ 小鉢 揚げ物 お食事物 甘味 季節の焼 ご飯物 甘味

一品料理のご用意もございます。(要予約)

すると、上のデザインよりも落ち着きが出て、上品さや高級感が表現されたのではないのでしょうか？他にも「楷書体」「行書体」といった筆で書いた様なフォントを使用しても、和の雰囲気や上品さ、高級感などを出すことが出来ますよ。

この様に、色だけで表現しきれないと感じた時は、内容やテーマに合わせてフォントの種類も選んでみると、より想いが伝わる物に仕上がります。1つのデザインでフォントを色々変えながら、そのフォントを使うとどんな印象になるのかを試してみるのも面白いかもしれませんね。

1つの紙面で多くのフォントを使用すると、まとまりのない印象になるので、フォントの数を1~2種程度に収めると良いですよ。

イロイロ雑学

突然ですが、高齢になると誰にでも「見えにくくなる色」が出てくるのをご存知でしょうか？

実は、60歳以上の約9割の方々は眼球表面にメラニン色素が沈着し、つまり茶色のベールをかけたような感じに物が見えているのです！その結果、茶色と黒と紺と紫と青と深緑は、すべて「黒」に見えてしまいます。ですので、茶色の背景に紺の文字でデザインされていたりすると、とても読み辛くなってしまいます・・・

近年よく耳にする「ユニバーサルデザイン」は、この様な問題を解決するべく出来たもの。「デザイン」と聞くと、物の形状だけかと思われるかもしれませんが、色の組み合わせや、読みやすいフォントなど、細かな部分も考えられています。私達も、誰にでも無理なく見やすい・伝わりやすい印刷物を作成していけると良いですね。



色彩を使った印刷物で、より良いコミュニケーションを！

次回も

Let's カラコミュ！！